

大好評！志津川たこしゃぶ



志津川湾のタコは、栄養豊富な海で育った鮑を食べているグルメなタコ。旨味が凝縮された絶品のタコは、『西の明石、東の志津川』と呼ばれるほどの逸品です。

この志津川タコを、透き通る程薄切りにすることで、柔らかくプリッとした食感を楽しめます。

食べ方はとてもシンプル♪お鍋で数秒「しゃぶしゃぶ」して、薄切したタコがプリプリとしたウェーブ状になったら食べ頃。噛むほどにタコの濃厚な旨味がお口の中に広がります。志津川産の自慢のタコを、心ゆくまで堪能下さいませ。



フジテレビのお昼の情報番組「バイキング」の【勝俣州和VS東ちづる芸能人絶品お取り寄せ自慢対決】コーナーにて当館の『志津川タコと新わかめのしゃぶしゃぶ』が紹介されました。スタジオの皆様にも召し上がって頂き、対決は東ちづるさんに紹介して頂き見事勝利致しました。

現在新わかめの時期は過ぎてしまいましたが、タコのみ販売しております。また、タコしゃぶ付のプランもございますので、ぜひご利用くださいませ！
⇒<http://www.mkanyo.jp/yoyaku/>

マリンパルだより

ホテル観洋託児所マリンパルでは8名のお子さんたちが旅立ち、それぞれの保育所へと進んでいきます。今まで、一緒に笑って、遊んで、同じ時間を過ごしたお友だちと最後の思い出を作りたいと、3月28日にはお別れ会を行いました。



在園児さんからのプレゼントはタンポポの首飾り、卒園児さんから在園児さんへは、みんなで作ってくれたチューリップの壁掛けが送られました。



また、4月1日はマリンパルも新年度がスタートしました(*∇*)クラス編成がかわったり、新しいお友達が入所しました♪ママと離れての生活は初めてで、涙涙でのスタートでしたが、みんなでたのしく遊ぶうちに、笑顔も見られるようになってきました！お友だちや先生たちとたくさんあそんで、少しずつマリンパルの生活に慣れていこうね(^o^)/

編集後記

全国被災地語り部シンポジウムin東北、無事終わりました。これから本当の始まりです。未来を変えるために、今この時を大切に頑張る。桜の季節が来ると、・・・また年を1つ取る怖さも・・・近頃感じ始めてます(笑) (伊藤)

私も無事花粉症デビューし数年...くしゃみは辛いですが春はお花がきれいに咲くので大好きです♪新番組をチェックしなくては！(高田)

春ですね。春になると昔 送別会で松任谷由美の「卒業写真」を歌いながら真顔でラジオ体操をするという謎の出し物をしたことを思い出します。変な人が増えます。春ですね。(当間)

春はほかほかで過ごしやすいのですが、花粉がひどいひといき...おかげ様で花粉症に悩まされております。くしゃみ連続最高記録は5回です！(村上)

〒986-0766
宮城県本吉郡南三陸町黒崎99-17
南三陸ホテル観洋 情報誌編集部
TEL 0226-46-2442 FAX 0226-46-6200
Eメール minamisanriku@kanyo.co.jp

【Twitter】リアルタイムで情報発信中!「@kanyo11」
【facebook】「南三陸ホテル観洋」いいね!お願いします
ホームページでスタッフブログ「ときめきピチピチ便り」を毎日更新中!

KANYO

~これで貴方も観洋ツウ VOL 65
南三陸ホテル観洋 H28.4月発行

震災を風化させないための語り部バス

第4回富県宮城グランプリ
地域産業革新部門賞 受賞
第2回観光王国みやぎおもてなし大賞
特別奨励賞 受賞

2011年9月から始まった当館の語り部活動、そして2012年2月より運行している「震災を風化させないための語り部バス」の取り組み。交流人口の増加に繋がる優れた「おもてなし」であること、地域資源を活用しての魅力発信と地域経済活性化に貢献したことを評価され、この度の受賞となりました。



観光王国みやぎおもてなし大賞

富県宮城グランプリ

震災の記憶を風化させないために、そして次代を担う学生・生徒の皆様「おもてなし」の心や地域交流の重要性を学んで頂くために。震災後より続けている二つの取り組みが、この度たいへん栄えある賞を頂きました。

心より感謝申し上げますとともに、今後も皆様のご指導、ご愛顧賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

文部科学省
平成27年度 青少年の体験活動推進企業表彰
中小企業部門 審査委員会奨励賞 受賞



上)学生インターンシップのホテル業務実習

下)仮設住宅での生徒と町民の交流

「社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた実践を行っている企業」として、文部科学省より表彰を受けました。おもてなしの心や震災の記憶、そして地域との繋がりを知って頂くために、未永くこの実践学習の取り組みを続けていく所存でございます。



平成28年度(株)阿部長商店入社



4月1日は当館の(株)阿部長商店グループの入社式がございました。新入社員はグループ全体で26名、そのうち当館に配属されたのは8名です。式中、阿部泰浩社長より社章の授与が行われ、新入社員を代表し、大船渡食品の田村亮輔さんに授与されました。

阿部泰浩社長は「新しい工場も稼働し、ようやく軌道に乗ってきた」と阿部長商店の現状を述べ、新入社員を代表して、大船渡食品の木村七海さんが「1日でも早く仕事に慣れるように精一杯頑張りたい」と決意を新たにしました。様々な課での研修も始まっております。館内でお見かけの際には、ぜひお声をかけてくださいね。



新入社員謝辞

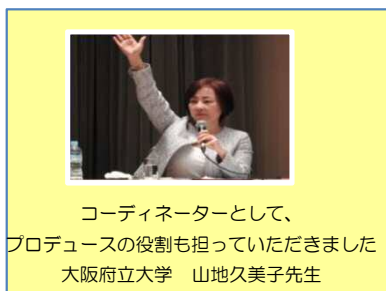


社章授与



200名の参加定員を
はるかに上回る330名の皆様にご参加いただきました!(^^)

第1部の語り部バスから大型バス4台分の参加者となり、基調講演&メインパネルディスカッション、3つの分科会、交流会、翌日の閉会セレモニーなどのプログラムも非常に関心が高く熱気があふれていました。



コーディネーターとして、プロデュースの役割も担っていただきました
大阪府立大学 山地久美子先生



全国被災地語り部シンポジウムin東北
実行委員長
阿部 隆二郎
(南三陸ホテル観洋副社長)
による開会宣言

当館を会場に『全国被災地語り部シンポジウム』を初めて開催しました!

阿部女将が以前から開催することを構想し続け、昨夏に北淡の皆さまとご縁が繋がったことを機に、ここで「民」のチカラを結集し、全国に広がるネットワークで「絆」の手を繋ぎました。チャレンジとフロンティアスピリッツを忘れず、この機会がゴールではなくスタートになる決意のもとたくさんの皆様と思いを共有できました!!



全国被災地語り部宣言
私たち「被災地語り部」は全国から東日本大震災被災地、宮城県南三陸町に集い、3月21日、22日の2日間、各地における取組み、課題、希望を伝え、議論しました。閉会にあたり、誰もが「語り部」であり、私たちは「命を守る」ため次世代へ教訓を伝える努力を続けることをここに宣言します。

1. 私たちは、地域の歴史を学び、自身、地域の自然災害の経験を記憶・記録し、「命を守る」ため次世代、社会へ広く伝える活動を実践、支援します。
2. このシンポジウムをきっかけとして始まった全国の語り部との交流を深め、ゆるやかなネットワークを広げていきます。交流により各地の災害、語り部の活動を理解することで、自身の語り部活動の学びとします。
3. 災害の悲惨さを伝えることで、防災・減災・縮災を語り部の力で広げていきます。そのために様々な提案を行います。

被災地語り部活動をより進めるために「被災地語り部基金」の創設を提案します。

全国被災地語り部シンポジウムin東北
南三陸ホテル観洋において
2016年3月22日



基調講演 民俗研究家 結城登美雄先生
演題「もう一度、ここで生きていく。」

結城先生の講演は、語り部として、ということ以上に「人」として生きる大切さ、「命」そのものを繋げていく使命、今を生きる私たちが絶対見失ってはいけないことを、心揺さぶるメッセージとしてお話しいただきました。



元南三陸消防署副署長 佐藤誠悦さんの講話は熱いメッセージでした



夢未来南三陸まちづくり事業部長 小野寺寛さんの講話は深く力強く未来への提言とないました



第一分科会「東日本大震災ワークショップ」では熱いリレートークが結ばれました♪



和歌山県 稲むらの火の館 崎山 光一 館長



淡路市 北淡震災記念公園 米山 正幸 副支配人



神戸市 人と防災未来センター 小林 郁雄 上級研究員



南三陸町 復興みなさん会 後藤 一磨 代表

パネルディスカッションのパネラーの皆さま、分科会の講話講師の先生方はこのシンポジウムだけの錚々たる方々ばかりでたいへん好評でした。

津波避難システムの社会実験実践や全国各地の語り部の紹介パネル展示、気仙沼視察オブショナルツアー等2日間の充実したプログラム構成で参加した皆様からも「ぜひ次回の開催だけでなく、ずっと取り組んでほしい」という声が多く上がりました!



阪神淡路大震災や全国被災地語り部の取組の貴重なパネル展示も充実



伊藤部長の語り部



宝田和夫
気仙沼観光コンベンション協会副会長の分科会報告



第三分科会「次世代に繋ぐ語り部ワークショップ」

実行委員会事務局長 & 分科会コーディネーターを兼務した伊藤課長

淡路島と南三陸、さらに京都の高校生も加わり充実のトークセッション!

タブレット端末を使った語り部の取り組みも紹介しながら、正に未来志向のワークショップになり、これからは繋がる時間を参加者全員で共有できたひと時でした

誰もが思う「未来」「絆」「繋がり」を思いからカタチへ、希望の前進へそして伝わるから★伝える★へ



第二分科会も「南海トラフ」がテーマとなり真摯な議論が繰り広げられました!



平成28年3月22日(火) 河北新報

シンポジウムの総括として『語り部ネットワーク』構築の提案と副実行委員長の宮本肇 北淡震災記念公園総支配人から

『語り部宣言』

が、発表され誰もが「伝えていく」と繋がりを広げていく事を全会一致で採択致しました!!

交流レセプション



世界一! 思いが繋がった集いでした♪



震災後初の「鮪の解体ショー」と南三陸「陸仙海」のパフォーマンスで多いに盛り上がりました!!